

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)						
ET45F003	教育課程・学習指導論特論(Special Seminar in Research on Teaching and Curriculum Studies)					教育学						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1	大学院教育学 研究科			氏名 伊藤安浩 E-mail yasuihiro-ito@oita-u.ac.jp 内線 7636						
授業の概要	日本の学校をめぐる現代的な教育課題を解決するための力を身に付ける。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1 2 3 4 5 6 7 8 9 10						
目標1	日本の学校の教育課程と学習指導の特質を、アメリカの学校のそれとの文化的な比較を通して反省的に理解する。											
目標2	日本の学校教育を改善していく新鮮な視点を見出す。											
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	教育課程と学習指導に関する日米比較の意義											
2	アメリカの教師・学校文化の特質～学校の教育目標～											
3	アメリカの教師・学校文化の特質～教職への満足度と有効性の意識～											
4	アメリカの教師・学校文化の特質～校長のリーダーシップと同僚性～											
5	アメリカの教師・学校文化の特質～メンター・ティーチャー～											
6	アメリカの教育改革の動向～ナショナル・スタンダード～											
7	日本の学校・教師文化の特質～学校の教育目標～											
8	日本の学校・教師文化の特質～教職への満足度と有効性の意識～											
9	日本の学校・教師文化の特質～校長のリーダーシップと同僚性～											
10	日本の学校・教師文化の特質～経験ある先輩教師～											
11	日本の教育改革の動向～学習指導要領～											
12	比較文化的研究の問題点											
13	日米の学校と教師は何を学び合えるか～日本から見たアメリカの学校～											
14	日米の学校と教師は何を学び合えるか～アメリカから見た日本の学校											
15	まとめ											
ラ ブ ニ テ ン イ グ	A:知識の定着・確認	レポーターとディスカッションを中心に授業を進める。				工 夫 そ の 他 の						
	B:意見の表現・交換											
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造											
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	講義内容に関連する事柄や課題についての調べ学習をする(20h)。										
	事後 学修	ノートやプリント等を読み直すなどして、講義内容を定着させる(25h)										
教科書	H.W. スティーブソン & J.W. スティグラー(1993)『小学生の学力をめぐる国際比較研究』金子書房											
参考書	幼稚園教育要領, 小学校学習指導要領, 中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省), 高等学校学習指導要領(平成21年3月 文部科学省)											
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	期末レポート	70%										
	ディスカッションへの貢献	30%										
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク												
	URL											